





京都大学大学院理学研究科 物理第二 谷森達 他 宇宙線ガンマ線グルー プ 25/01/06 「マイクロパターン検出器の開発と展望」@RCNP



Feature of µ-PIC(身内君)

→ Direct collection of charge
 → Equal signal from anode and cathode

→ Upward electric field → No charge-up

cathode (-) anode (+)





MSGC to MPGC

+ MPGC

- MPGC: micro pixel gas chamber
- Large area with PCB tech. pitch :400 µ m
- high gas gain
- small discharge damage



La T	MSGC	MPGC	
Maximum gain	1700(with capillary)	15000	
Stable Gain	1000	7000	
Long time	they are	>30 days	
Area	10 x 10 cm ²	30 × 30cm ²	
Pitch	200 µ m	400 μ m (300 μ m possible)	
uniformity	~35%	4%	

Performance of m-PIC8

⁵⁵Fe Spectrum



µ PIC精度の進化(継続性)
 * 電極の製作精度向上 2001 - 2005
 一様性 30% - > 4%
 利得 3倍以上
 サイズ 3x3cm - > 10x10cm - > 30x30cm







MPGDの特性

- → 高い2次元位置検出能力(100 µ m)のイメージング
 - 耐放射線特性、従来のガス検出器の1000倍以上(10⁷mm⁻²)
 - 常温で動作、低電力、
- → 簡単な回路で信号処理が可能、デジタル処理。
 → 任意の電極配置、曲面構造が可能
- + 30cm平方以上の大面積
- → 画像歪が無い、高い感度一様性(~5%)
 → 利得>10000; 安定動作、 放電に強い
- → プリント基板技術による量産性、大きな量産効果がでる。
- → これらの特性は今後の放射線、粒子線計測には不可欠な要素

フォトン計測を生かした新しいX線解析法 時分割計測!





MPGDを実用化するには?

 ◆ 製作施設(製作を請け負う会社と技術)
 ◆ 電極設計法(手探りで出来ない)
 ◆ 信号の読み出し法と回路との接続法 (読み出し基板およびMPGDとの接続)
 ◆ 回路数の問題、サイズ、電力、コスト(LSI化)
 ◆ 形状、電極設計の任意性の高さ(構造の単純さ)
 ◆ 生産、開発の迅速性・継続性!!

高い応用力と実用力が不可欠!!!

X-ray Rotating Crystal Analysis (MSGC1999)

Rotor of Crystal







MSGC+AMP. Box



Data Acquisition System

時間情報を用いた新しい測定法の実証

→ X線到来時間を回転角情報へ(Rocking curveの同時測定)
 → 振動回転から連続回転で、高速化

RCP (Rotation continuous photograph) method



Time Resolved X-ray Crystal Structure Analysis(1999)

東工大化学科大橋グループ との共同実験

No.	Crystal	Ref. #	R-factor $(l > 2\sigma)$	time (sec.)
11.14	C ₄ H ₉ NO ₆	1,406	7.9%	2.1
1	C ₂₀ H ₃₇ CoN ₆ O ₄	4,361	9.8%	300
1.12	C ₂₅ H ₂₆ O ₄	4,565	8.4%	80

-0.2 -0.4 0.40 20 0.20.4



b X-ray



高速連続撮影

短時間での変化を捉える。 各X線の到来時間を記録しているので、データ収集後、 任意の時間幅のシャッターの連続画像に変換できる。



コラーゲンの小角散乱の短時間測定

小角散乱実験 → フォトン計測とダイナミックレンジの試験 MSGC > 10⁶ CCD ~ 10³⁻⁴ IP ~ 10⁵⁻⁶ → 時分割能力 500 µ S



Fig. 1. Solution scattering patterns from polystyrene latex measured with MSGC (filled circle), XR-II+CCD (open circle), PSPC (triangle) and IP (box). The sample was dispersed in 52.1 wt% glycerol. The buffer image was subtracted.



Fig. 2. Solution scattering patterns from an apoferritin solution (11 mg/ml) measured with MSGC (filled circle), XR-II+CCD (open circle), PSPC (triangle) and IP (box). The buffer image was subtracted.

Toyokawa et al (2001)

フォトン計測X線2次元検出器の条件 安定した高利得(3000以上) 大面積 最低でも10cm角、20cm角以上、 2. 不感部分が無い(つぎはぎ、接合部など) 感度の一様性(1%以下、量子計測で)、画像歪みが無い。 3. 強度による感度変化が小さい。 Parallaxが小さい。 5. メインテナンスが簡単、安い(複数台が必要) 6. ガスMPGDは5以外実現出来た、6は高圧化と回転角情報で対 応できる。 半導体Pixel, 1、2,3,6の実現が大変である。 解析ソフト開発も大変(ピクセル境界領域処理の開発)!

達成目標

→ 10cm角および30cm角、量子計測型X線画像 装置を実現。

 → 1 ~ 3×10⁷ cpsを実現。
 → 結晶解析、無機結晶で100ミリ秒以下、高分子 で数分のデータ収集時間を実現。
 → 1時間の測定でダイナミックレンジ10⁸を実現。
 → 結晶解析精度 R値 1 - 2%を実現

企業との協力

ガス封じ込め技術、結晶構造解析ソフト開発 -> Rigaku (メインテナンス、製品化?)
MPGD製造、基板 ->DTサーキット(多様な技術)
圧力容器、信号取り出し->日立メディコ
医療画像、製品化 ->日立メディコ
信号処理回路 ->日立関連各社
LSI製造、??



µ PICによる新しいタンパク質解析法

→構造解析、ブラッグ反射強度から位相決定が問題!

金属をドープし、異常分散を利用する。 たんぱく質に自然にある硫黄の吸収端(2.3keV)の 前後の強度変化による以上分散法による位相の導 出。(京大 理学部化学、三木教授より)

> 2keV Ar, 200e. Si, 800e 利得が必要!

2.3keV

Direct X-ray beam response: Poisson distribution of counts in each pixel From

From E. M. Westbrook ¹Molecular Biology Consortium Inc.

Spectrum in a Multichannel Analyzer



・たんぱく質構造解析 ~ 究極型~ 全方向の散乱点の同時計測。 放射光施設で世界最高の「たんぱく質解析工場」 大規模生体分子の秒オーダーの高速構造解析 ミリ秒の時分割 **30cm平方MPGC6~10枚程度を** 組み合わせることで実現、 回路のより小型が課題 技術的問題は小さい、

X 線



256x256



10cmMPGC

コスト •µPIC本体 •接続基板 •ボンディング 新型圧力容器開発(日立と共同)
 ◆ 容器からの信号取り出し、基板引き出し型(日立) 数千チャンネル以上に対応!
 ◆ 信号減衰の低減、耐圧性の大幅な向上
 ◆ 10 cm µ PIC用実用,現在30 cm µ PIC用、試験中



回路のモジュール化、低ノイズ化

30cm µ PIC



10cm µ PIC





30cm対応 100MHz 座標演算装置 (900x900入力、 1800x1800出力)

CMOS-AMP(KEK)



Meidcal 30cm-TPC Camera



ve been



電子飛跡型コンプトンカメラの開発(高田君)





宇宙MeV 線 気球実験

- 2006年に三陸沖で6時間の観測を希望。
- 10cm TPC +GSO 6mm pixel
- 100keV-1MeV 新しい観測領域の開拓



三陸 JAXA気球 in 2006



ガンマ線医療3Dイメージ

 3次元CT(1ガンマ線線源でもOK)
 低線量、低被爆
 異なる試薬の同時測定 (フッ素:512keV,ヨウ素:358eV)
 核物質を選ばない!
 40以上の核種 (分子イメージング) Ca, Fe, Na, Zn, Cu, Mn, S,
 安価

<u>慶応大医、福井大医</u> JST(先端分析機器開発事業) 京大医、薬学部、日立メディコ、



Mobile Compton Camera 10cm µTPC+Pixel Array



10cm μTPC to 30cm μTPC in 2006



Time-resolved neutron imaging

Pulsed neutron beams by proton synchrotron

n

~ E^{-1/2}

crystal

Timing resolution (<1 µ s) energy of neutrons Rapid Laue method

3-D proton tracks detected by MPGC

p





Drift plane

3 Cathode

Anode

D

400um



まとめ

→継続的・系統的開発 →検出器の特徴を活かした新分野の開拓!!









新しい物質構造解析を目指して! KEK大学支援連携事業

→ 高速、 巨大分子(たんぱく質)、創薬、材料 タンパク質を数分で! → 高精度(ダイナミックレンジ) たんばく質 104-6 を108 以上に! +時分割反応のダイナミックス、光反応、 酵素反応、など多数の過程 完全構造決定、連続変化を測定 (マイクロ秒スライスで)

X-ray Crystal Structure Analysis



中間増幅器によるµPIC高利得化 Muon Lead oxide glass 100um **Capillary Plate** drift [c]m inconel 10cm 1nhm 8cm Total gain 50000 μΡΙΟ 1000 10cm 10m 4 Capillary 50 6 7 8 9 10 cathode [cm] **10**⁴ **GEM** e- from ⁹⁰Sr(Q~2MeV) 10 등 Shoot **GEM** μ**PIC Total gain** 2x10⁵ μΡΙΟ 2000 9 9 8 7 6 5 4 **GEM** 100 [cm] 10012